広島経済大学 広報

発行所
広島経済大学
広島市安佐南区祇園五丁目37番1号
郵便番号731-0192
電話番号（082）871-1000㈹
ホームページ http://www.hue.ac.jp/

2面　メディアビジネス学科ゼミ活動
3面　保護者会春季役員会／大学説明会開催
4面　「新入女子学生歓迎会」を開催
5面　「オーダーメイド」の就職支援で就職活動の質向上
6面　平成30年度学生募集要項

石田学園創立110周年・広島経済大学開学50周年記念祝賀会開催

次の50年へ共に挑戦を！

50年の発展・変貌を振り返り 未来を見据えた新しい挑戦へ

先人たちの努力を忘れない

建学の精神『和を以て貴しと為す』を継承し、人材育成の教育機関としての責務に力を注いできた広島経済大学は、平成29年1月23日をもって開学50周年を迎え、同年4月8日に石田学園創立110周年を迎えた。4月1日には、記念祝賀会を開催し、同日、開学50周年事業として建設されたアカデミック・コモンズ「明徳館」の見学会も入学式のあと保護者を対象に実施された。

50年の歩みを振り返る石田恒夫理事長

すべての始まりはここから

明治40年、校祖石田米助翁により学園の起点となる私立広陵中学校が創設された。そして昭和42年、先人たちの血の滲むような努力によって、由緒ある武田山南麓の地に広島経済大学は開学した。当時の講義棟はひとつ、グラウンドもひとつ、経済学部の中に学科も経済学科のみで、入学定員はわずか150名だった。

昭和42年4月15日の第1回入学式は、あいにくの小雨だったが、制服制帽に身を包んだ新入生たちは、希望に胸を膨らませ、ぬかるんだ坂道を元気よくのぼってきた。この日からすべてが始まった。

発展と変貌に確かな手応え

平成29年4月1日、学校法人石田学園創立110周年・広島経済大学開学50周年記念祝賀会をANAクラウンプラザホテル広島にて開催した。来賓ならびに教職員の参列を得て、石田恒夫理事長は、「この記念すべき日を本学役員、教職員、退職者、同窓会、保護者会の方々と共に祝うことができ、無上の喜びを感じています」と感謝の思いを伝えた。

理事長の話に聞き入る参列者たち

続けて、開学から50年の歩みを、人材、環境、財務力で振り返った。

■人材　開学初年度は教職員33名、新入生は約300名でした。現在の在学生約2800名、卒業生は学部・大学院を合わせて3万5000名超。教職員は現職、退職者を合わせると600名近く、今では名簿や写真でしか振り返れない方も多くおられます。彼ら先人たちの努力が結実して今日があることを決して忘れてはなりません。

■環境　施設設備には常に進化を求め、開学以来300億円近い投資を行ってきました。代表的なものだけでも、1号館、2号館、本館、第2・第3グラウンド、総合グラウンドの造成、総合スポーツセンター、教育研究棟、体育館、学生会館リブレ、6号館、図書館、メディア情報センター、興動館、成風館、フットボールパーク、そして平成28年12月に明徳館が完成しました。本学の施設に対する社会的評価は大変高く、学生からも高い満足度を得ています。

■財務力　1150億円。これは50年間の学生納付金の総額です。加えて、補助金＋受取利息が200億円超。この収入が人件費、教育研究のための費用、施設充実に充当され、今日の広島経済大学を創ってきました。財務は依然として十分な健全性を維持しているのでご安心いただきたいと思います」。

参列者のなかには、50年間の発展・変貌を実感し、大きくうなずく姿が見られた。

「こうした本学すべての資産を背景に、今、どの大学も挑戦したことのない『戦略的定員割れ作戦』に打って出ています。今日を節目に、これからの50年に向けた新しい大学改革に皆さんと共に挑戦していきたいと考えています」という石田理事長の力強い言葉に、会場は盛大な拍手に包まれた。

懐かしい顔ぶれと語り合う様子

平成29年度 入学式挙行

式辞を受ける新入生たち

4月1日、平成29年度入学式が本学石田記念体育館において執り行われた。満開の桜が出迎えるなか、経済学部809名（経済学科302名、経営学科321名、ビジネス情報学科53名、メディアビジネス学科54名、スポーツ経営学科79名）と大学院11名が「ゼロから立ち上げる」興動人を目指して一歩を踏み出した。

式では、小谷幸生学長から「広島経済大学は今年、開学50周年という節目の年を迎えました。次の50年に向けて新たなスタートを切る、その記念すべき最初の年に皆さんを新入生として迎えることができ、大変嬉しく思います。私は、本日4月1日に学長に就任しました。皆さんと同じ1年生です。皆さんが卒業時に『広島経済大学で学生生活を送って本当によかった』と言えるような大学を目指して、努力を惜しまない覚悟です。新たな歴史と伝統を一緒に作っていきましょう」と式辞があり、続いて学部を代表して中野亜香璃さん（メディアビジネス学科・大分県／別府青山高校出身）と、大学院を代表して白娜仁格日楽（バイナリンゲリレ）さん2名が「学術の研鑽に専念し、世界の平和・反映に貢献し得る人物となるべく、努力をいたします」と、それぞれ宣誓の言葉を述べた。

その後、石田恒夫理事長、高橋裕保護者会会長から、新入生および保護者の方々へお祝いの言葉が贈られ、最後に大学歌を斉唱し、厳粛裡のうちに終了した。

◇　◇　◇

午後からは、各学科に分かれてのガイダンスや保護者対象の教育懇談会、施設見学ミニツアーなどが行われ、学内は一日中賑わいを見せた。

平成29年度 新入生セミナーを実施

4月6日から9日までの期間、江田島青少年交流の家で新入生セミナーが実施された。本セミナーは、新入生全員と教職員が1泊2日の共同生活を通じて互いの信頼、親睦を深めることを目的としている。

1年次の必修科目である大学入門ゼミごとにグループを作り、運動会やカッター研修に取り組んだ後、ゼミの時間に、教員がファシリテーターとして、自己紹介、レクリエーションなどを行った。次第に笑顔も増え、コミュニケーションが取れた様子が、どのグループからも伝わってきた。

新入生全員が入学式から数日のうちに同じプログラムを体験する本セミナーは、円滑な学生生活のスタートと良好な人間関係づくりの一翼を担っている。

カッター訓練の様子

トピックス

ランキングで中四国の私立大学でトップ!!

- 「生徒を伸ばしてくれる大学」ランキング
- 「改革力で優れている大学」ランキング

「生徒を伸ばしてくれる大学」ランキングでは、全国の国公立を含めた大学では52位、広島県内では広島大学に次いで2位で、中四国の私立大学では1位を獲得。

「改革力で優れている大学」ランキングでは、全国の国公立を含めた大学では51位、中四国では4位。広島県内に限れば広島大学に次いで2位で、中四国の私立大学では1位。

※いずれのランキングも大学通信が毎年、調査しているもので、全国約2,000進学校の進路指導教諭に対してアンケートを実施した結果による。

メディアビジネス学科　ゼミ活動
「想い」を伝える映像を制作

土屋ゼミ
原爆小頭症患者の想いに寄り添う

5月、土屋祐子准教授のゼミでは当事者の声とイメージ写真を組み合わせるデジタルストーリーテリングという手法を使い、原爆小頭症患者の想いを表す動画を制作するワークショップを実施した。名古屋大学大学院の小川明子准教授との共同企画で、土屋ゼミの学生8名、名古屋大学大学院生4名が参加した。

制作した動画の試写会の様子

母親の胎内で被爆し、障害をもって生まれた原爆小頭症患者の吉本トミエさんから、人生を振り返るお話を聞き、学生がファシリテーターとなって吉本さんの半生と想いを伝える台本を一緒に作成。写真やイラストを合わせ、吉本さんにナレーションを吹き込んでもらって動画にまとめた。

三好将太さん（メディアビジネス学科3年・愛媛県／津島高校出身）のグループは、吉本さんの好きな絵をキーワードにした作品『もっともっと描きたい』を制作した。

「吉本さんのお話のなかで絵に対する想いが印象的でした。描くことで病気の痛みを忘れられること、絵を描くことが好きな娘さんへの愛情を伝える作品を目指しました。吉本さんの想いが伝わる言葉選びにもこだわり、表現の楽しさと難しさを学ぶことができました」と三好さんは語った。

また、『夢物語』を制作した西尾圭市さん（メディアビジネス学科3年・広島市立広島商業高校出身）は、「病気を患いながらも2人の子どもに恵まれたことや、これからの人生で叶えたい夢に焦点を当てたことで、原爆小頭症の苦しさだけでなく、吉本さんの前向きに生きる姿を伝える作品になりました」と語った。

他にも、病気と向き合う葛藤を綴った『スイッチ』、やりたいことをストレートに言葉にした『もしも』の全4作品が完成した。

今回の取り組みについて土屋准教授に話を聞いた。

「日頃出会うことのない『他者』と出会い、その人の経験や想いに丁寧に耳を傾けて自分との共通点を見つけること、それが他者を理解するきっかけになります。また他者の想いをメディア作品にまとめ上げるなかで理解が深まり、学生自身の『世界』が広がっていきます。メディアの役割や表現の可能性を実践の中で学び、自らの『世界』をさらに広げてほしいと思っています」

土屋ゼミでは、今後も他大学との合同合宿で作品の合評会を予定している。

徳永ゼミ
中国残留邦人の境遇を伝える

徳永博充教授のゼミ生4名が広島市に住む中国残留邦人の経験や現在の生活をありのままに伝えるドキュメンタリー映像の制作に取り組んだ。

第二次世界大戦終結時の混乱によって、中国北東部（旧満州）に暮らしていた日本人の子どもが孤児となり、中国残留を余儀なくされた。長い年月をかけて多くの中国残留邦人が日本に帰国し、広島市基町地区にも帰国者が暮らしている。

今回、制作のディレクターを務めたのは藤本益之介さん（メディアビジネス学科4年・広島県／広島観音高校出身）は、「基町地区の高層アパートに中国の方が多いことは知っていましたが、調べていくなかで初めて、中国残留邦人の歴史を知り、実は中国から帰られた日本人だとわかりました。肉親を頼って帰国したものの中国語しか話せず、日本の生活に馴染めない人も多くいます。国家に翻弄された中国残留邦人の存在がこんなにも近くにあったことに驚き、自分たちの世代が語り継いでいかなければいけないと思いました」と想いを語った。

インタビューをする藤本さんたち

昨年の10月から中国帰国者の会のボランティア活動に参加することから取材が始まった。撮影した映像は約110時間。

カメラマンを務めた堀晴輝さん（メディアビジネス学科4年・広島県／宮島工業高校出身）は、長期間の取材を振り返った。「中国残留邦人1世の女性2名と2世の男性へのインタビューや、中国の旧正月を祝う地域のお祭、アパートでの日々の暮らしなどを撮影させていただきました。こだわったのは物事の本質に迫ることです。彼らが集まる公民館やアパートを毎週のように訪問して信頼関係を築いていくなかで、彼らの表情も柔らかく変化していったことが印象的でした」と笑顔で語った。

徳永ゼミ
沖縄と広島の平和への眼差し

徳永ゼミの4名が沖縄を舞台にしたドキュメンタリー映画の制作に取り組んだ。作品のタイトルは「眼差し～ヒロシマから沖縄～」。

平成28年4月に起きた元米兵による女子大生殺害事件をきっかけに、同年5月、沖縄で大規模な県民大会が開かれた。そこで名護市名桜大学4年生（当時）の玉城愛さんが「第二の加害者はあなたたちです」と涙ながらに訴えた。

制作のリーダーを務めた三上奈津希さん（メディアビジネス学科4年・広島県／広島県瀬戸内高校出身）は、「なぜ自分が加害者だと言われるのか？　沖縄の人々はなぜこんなにも憤っているのか？　それを知らなければいけないと思い、ドキュメンタリー映画のテーマに決めました」と話す。

撮影した画像を確認する三上さんたち

この作品では、制作メンバーの一人であり、沖縄県出身の父親と広島県出身の母親をもつ太麻帆さん（メディアビジネス学科4年・広島県／高陽高校出身）がナビゲーターとなって沖縄戦の生存者の方々を訪ねてインタビューを行った。広島と沖縄の両方をルーツに持つ彼女の視点で、日本社会が抱える問題と多くの人の平和への想いをつなぐ。取材に応じたのは、6月に亡くなられた元沖縄県知事の大田昌秀さん、県民大会で登壇した玉城愛さん、従軍看護婦として沖縄戦を経験した白梅学徒隊員、広島の被爆者など。12名の想いが約30分の映像に凝縮されている。

完成した徳永ゼミの2作品は、11月に大阪で開催される「地方の時代」映像祭に出品。また、学内試写会を7月27日に開催し、学外での上映も予定している。

随想
学生野球の魅力

強烈なカルチャーショックだった。本学硬式野球部長として初めて陣取った一塁側ベンチに、うなりを上げてファウルボールが飛び込んできたのだ。辛くも避けたものの、硬式球の怖さを思い知った。

野球観戦が危険だと思ったことはなかった。前職（スポーツ記者）では、バックネット越しの記者席での取材が定位置であり、「安全地帯」に身を置いた。ところが、新たな観戦席は別だった。ベンチに座る限り硬式野球部の一員たる事実を痛感した。5年前、広島六大学野球新人戦での初陣がファウルボール体験だった。

格別、野球経験に富んでいたわけではない。知識だけは豊富だった。50年以上も前の中学時、当時発刊されていた地元紙発行のスポーツ紙「スポーツ中国」をむさぼるように読み、選手の背番号、出身校などをそらんじた。長じて記者として真夏の甲子園野球、カープ優勝も取材した。むろん、学生野球に触れる機会もあった。

東京支社在勤中の1992年には、本学の神宮（全日本大学野球選手権）初勝利を取材した。リーフの小林宏投手はその年、オリックスにドラフト1位指名された。思えば、奇縁である。後年、取材したチームのスタッフになろうとは。

昨年6月の全日本選手権で、思い出の神宮球場を再訪した。かつての職場である記者席を素通りして座ったのは当然一塁側ベンチ。東京の青空が印象的だった。試合は0－0のまま、延長タイブレークの末、サヨナラ負けを喫した。しかし、神宮の感触を存分に味わったナインに惜敗の暗い陰はなかった。「ここで戦うために、野球を続けてきた」。4年次生部員の一言が心に残る。

スポーツ経営学科　渡辺　勇一　教授

エース尾仲祐哉投手は昨秋、ドラフト指名を受けプロ野球入りした。挨拶に訪れた横浜DeNAスカウト部長は現役時代を知る巨人の捕手であった。図らずも、記者時代には立ち入ることのできなかった入団交渉の舞台裏を垣間見た。「マスコミには内緒ですから」と、契約金額や背番号をそっと漏らしてくれた場面には苦笑を禁じ得なかった。

今年創設50周年となった広島六大学リーグで、私のベンチ入りは10シーズンを数えた。10戦全勝優勝の感激に浸り、あと1球で優勝決定の局面に逆転満塁弾を浴びる悲運にも立ち会った。記者席にいてはとうてい味わうことのない、部員たちとの一体感がそこにはある。春秋のリーグ戦優勝時に作成する「チャンピオンTシャツ」は宝物となった。

試合前後にはナインとともに応援席へ向け一礼に走る。前川功一前学長から贈られた「背広姿の教員がベンチに座っていることこそが、教育的効果なのです」の言葉を胸に刻みながら。

（教授　スポーツジャーナリズム論、スポーツメディア論、スポーツビジネス演習など）

興動館プロジェクト
平成29年度プロジェクト認定式 開催

6月1日、本学631教室において、「平成29年度 興動館プロジェクト認定式」を開催し、プロジェクトメンバーや教職員約520名が参加した。

小谷幸生学長より、今年度の活動を認定された17の継続プロジェクト及び2つの新規プロジェクトに対して認定証が授与された。19のプロジェクトは、来年3月末まで活動予定。

この度認定された2つの新規プロジェクトを紹介する。

「広島平和発信プロジェクト」は、同世代の若者に戦争について知ってもらい、平和について考えてもらうことを目的としている。戦後70年以上が経過し、戦争体験者が高齢となってきている今、平和都市広島の学生自らが戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、次代を担う若者に発信していくイベントなどを行う。

「国際交流促進プロジェクト」は、海外姉妹校の学生との交流を通して、対象校への興味が深まるという実体験をした学生が、姉妹校と本学の架け橋になりたいと決意し立ち上がった。提携を結んでいる姉妹校の学生や本学学生にアプローチすることで、姉妹校の学生が1人でも多く本学に留学し、本学学生が積極的に留学に挑戦するなど、これまで以上に国際交流が促進されることを目的に活動を行う。

認定証を手にする学生たち

【平成28年度】資金収支計算書

企業会計のキャッシュフロー計算書に類似するもので、当該年度におけるすべての収入及び支出の内容と支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするためのものです。（単位：円）

収入の部 科目	決算額	支出の部 科目	決算額
学生生徒等納付金収入	2,591,706,000	人件費支出	2,040,931,111
手数料収入	69,824,228	教育研究経費支出	630,320,351
寄付金収入	34,804,000	管理経費支出	311,747,338
補助金収入	283,433,430	借入金等利息支出	0
国庫補助金収入	278,324,300	借入金等返済支出	0
地方公共団体補助金収入	5,109,130	施設関係支出	2,154,574,000
資産売却収入	6,421,531,559	設備関係支出	84,551,187
付随事業・収益事業収入	40,211,000	資産運用支出	6,337,196,194
受取利息・配当金収入	136,802,745	その他の支出	40,733,587
雑収入	143,171,154	資金支出調整勘定	△ 31,368,396
借入金等収入	0	翌年度繰越支払資金	874,157,064
前受金収入	549,855,000		
その他の収入	2,078,818,012		
資金収入調整勘定	△ 622,346,159		
前年度繰越支払資金	715,031,467		
収入の部　合計	12,442,842,436	支出の部　合計	12,442,842,436

【平成29年度】資金収支予算書

（単位：円）

収入の部 科目	予算額	支出の部 科目	予算額
学生生徒等納付金収入	2,579,100,000	人件費支出	2,306,600,000
手数料収入	57,500,000	教育研究経費支出	756,500,000
寄付金収入	2,000,000	管理経費支出	355,800,000
補助金収入	300,500,000	借入金等利息支出	0
国庫補助金収入	300,000,000	借入金等返済支出	0
地方公共団体補助金収入	500,000	施設関係支出	636,000,000
資産売却収入	4,385,000,000	設備関係支出	96,500,000
付随事業・収益事業収入	39,000,000	資産運用支出	3,400,000,000
受取利息・配当金収入	150,000,000	その他の支出	21,200,000
雑収入	126,000,000	（予備費）	100,000,000
借入金等収入	0	資金支出調整勘定	△ 24,000,000
前受金収入	568,000,000	翌年度繰越支払資金	568,000,000
その他の収入	117,500,000		
資金収入調整勘定	△ 640,900,000		
前年度繰越支払資金	532,900,000		
収入の部　合計	8,216,600,000	支出の部　合計	8,216,600,000

【平成28年度】事業活動収支計算書

企業会計の損益計算書に類似するもので、当該年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容を経常的収支及び臨時的収支に区分して表示し、それぞれの収支状況を把握したものです。（単位：円）

科目			決算額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,591,706,000
		手数料	69,824,228
		寄付金	600,000
		経常費等補助金	275,523,430
		国庫補助金	270,414,300
		地方公共団体補助金	5,109,130
		付随事業収入	5,211,000
		雑収入	143,171,154
		教育活動収入計	3,086,035,812
	事業活動支出の部	人件費	2,071,774,990
		教育研究経費	1,130,213,112
		管理経費	345,873,646
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	3,547,861,748
教育活動収支差額			△ 461,825,936
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	136,802,745
		その他の教育活動外収入	35,000,000
		教育活動外収入計	171,802,745
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			171,802,745
経常収支差額			△ 290,023,191

科目			決算額
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	27,829,894
		その他の特別収入	50,864,508
		特別収入計	78,694,402
	事業活動支出の部	資産処分差額	8,056,600
		その他の特別支出	0
		特別支出計	8,056,600
特別収支差額			70,637,802
基本金組入前当年度収支差額			△ 219,385,389
基本金組入額合計			△ 392,941,652
当年度収支差額			△ 612,327,041
前年度繰越収支差額			1,424,242,650
基本金取崩額			23,000,000
翌年度繰越収支差額			834,915,609
（参考）			
事業活動収入計			3,336,532,959
事業活動支出計			3,555,918,348

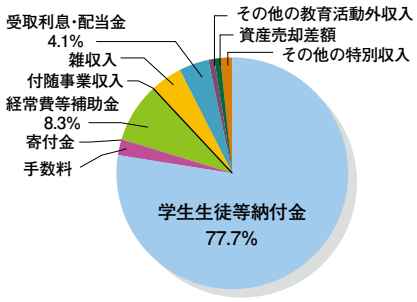
【平成29年度】事業活動収支予算書

（単位：円）

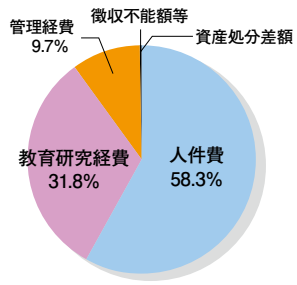
科目			予算額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,579,100,000
		手数料	57,500,000
		寄付金	0
		経常費等補助金	300,500,000
		国庫補助金	300,000,000
		地方公共団体補助金	500,000
		付随事業収入	4,000,000
		雑収入	126,000,000
		教育活動収入計	3,067,100,000
	事業活動支出の部	人件費	2,341,100,000
		教育研究経費	1,434,500,000
		管理経費	401,800,000
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	4,177,400,000
教育活動収支差額			△ 1,110,300,000
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	150,000,000
		その他の教育活動外収入	35,000,000
		教育活動外収入計	185,000,000
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			185,000,000
経常収支差額			△ 925,300,000

科目			予算額
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	4,000,000
		特別収入計	4,000,000
	事業活動支出の部	資産処分差額	4,000,000
		その他の特別支出	0
		特別支出計	4,000,000
特別収支差額			0
（予備費）			50,000,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 975,300,000
基本金組入額合計			△ 1,134,000,000
当年度収支差額			△ 2,109,300,000
前年度繰越収支差額			467,342,650
基本金取崩額			0
翌年度繰越収支差額			△ 1,641,957,350
（参考）			
事業活動収入計			3,256,100,000
事業活動支出計			4,231,400,000

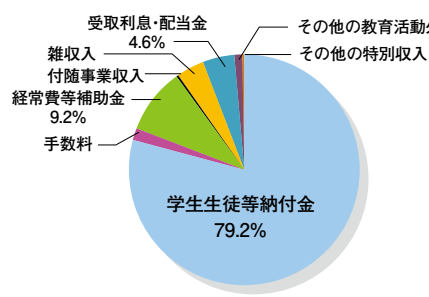
事業活動収入の構成比率



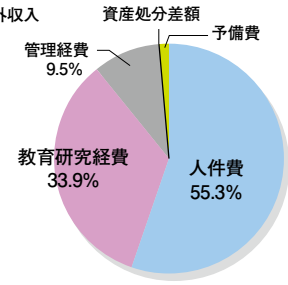
事業活動支出の構成比率



事業活動収入の構成比率



事業活動支出の構成比率



貸借対照表（平成29年3月31日）

3月末現在の財産状況を明らかにしたものです。

（単位：円）

資産の部 科目	平成28年度末	負債の部 科目	平成28年度末
固定資産	45,526,594,654	固定負債	760,625,059
有形固定資産	23,330,280,780	退職給与引当金	760,625,059
うち土地	3,905,844,820	流動負債	618,937,213
うち建物	12,828,320,023	うち前受金	549,855,000
うち教育研究用機器備品	466,111,719	負債の部合計	1,379,562,272
うち図書	5,455,197,929	純資産の部	
特定資産	9,424,471,293	科目	平成28年度末
うち第2号基本金引当特定資産	8,100,000,000	基本金	44,317,674,291
うち第3号基本金引当特定資産	1,195,000,000	繰越収支差額	834,915,609
その他の固定資産	12,771,842,581	純資産の部合計	45,152,589,900
流動資産	1,005,557,518	負債及び純資産の部合計	46,532,152,172
うち現金預金	874,157,064		
資産の部合計	46,532,152,172		

平成29年度　保護者会春季役員会

平成29年度保護者会春季役員会が、高橋裕保護者会会長をはじめ69人の出席のもと、5月30日広島ガーデンパレスにおいて開催された。この役員会は、保護者会規約第11条により、保護者会総会の代行となるものである。

役員会では、高橋会長の挨拶に続いて、平成28年度の事業報告、会計報告並びに監査報告があり、全員異議なく承認された。

続いて、平成29年度の事業計画（案）並びに予算（案）が提案され、全員異議なく原案どおり承認された。

次に、学事報告として、小谷幸生学長（名誉会長）から、平成29年度入学試験の結果、平成28年度の就職状況をはじめ、学習支援体制など大学の近況について、詳細な説明が行われ、役員会を終了した。

役員会終了後の懇親会では、新役員・顧問及び教職員による意見交換が活発になされた。

役員会の様子

高校教員対象　大学説明会開催

本学では、毎年、高等学校の先生方をお招きして、本学の現況や入試制度について理解していただき、今後の進路指導に役立ててもらおうと大学説明会を実施している。

今年度は本学会場（5月29日、30日）と、岡山（6月1日）、福山（6月2日）、松山（6月5日）、山口（6月6日）、松江（6月7日）で計7日間開催し、あわせて99校104名に出席いただいた。

説明会では、小谷幸生学長による開会あいさつの後、大学の現況報告、キャリアセンター職員による就職支援・実績説明、平成29年度入試結果報告・平成30年度入試要項説明と続き、最後に質疑応答及び個別相談を行った。現況報告では、入試改革と教育改革により、高校側と企業側の評価がそれぞれ高まっている状況などの説明があった。

出席された先生方は、入試や大学の現況報告に真剣な様子で耳を傾けられ、また、説明会終了後には、卒業した教え子たちの近況を聞かれる姿もあった。

今後も、本学の取り組み、特色をより知ってもらうため、本会を実施していく予定である。

高校の先生方に挨拶をする小谷学長（本学会場）

同窓会留学生奨学生決定

広島経済大学同窓会では、外国人留学生を支援する「同窓会留学生奨学金」を毎年1名に年額50万円支給している。今年度は中国出身の劉宗鑫さん（リュウ・シュウシン／経営学科3年）に決定した。

笑顔で記念撮影する竹村同窓会会長と劉さん

〈劉宗鑫さんの話〉

経営学の学びだけでなく、興動館での活動を通してコミュニケーション能力や行動力を磨くことができる環境に惹かれて、広島経済大学を選びました。現在は、簿記や貿易、マーケティングや流通などの専門分野の勉強に力を注いでいます。奨学金の支援に心から感謝し、今後も学びに精進していきます。卒業後は、日本の貿易会社に就職したいと考えています。さらに将来的には、大学での学びやさまざまな経験を活かして貿易会社を設立することが目標です。

「新入女子学生歓迎会」を開催

新年度のこまち会最初のイベントとして、4月22日に「新入女子学生歓迎会」を開催した。この歓迎会は、女子学生同士の交流の機会を増やし、新入女子学生の大学生活の不安を解消してもらいたいという目的で毎年実施している。

今年は、先輩女子学生スタッフ14名が出迎えるなか、新入女子学生60名が参加した。歓迎会は、「先輩女子学生のトークショー」と「ケーキバイキング」の2部構成となっている。トークショーは明徳館7階のプレゼンテーションコートで、3名の先輩女子学生が勉強の取り組み方やプロジェクト活動について、またファッションのことから食堂のメニューまでリアルな大学生活を紹介。実体験を交えた大学生活の話題に、新入女子学生たちは真剣に耳を傾けていた。

トークショーの後は、会場を明徳館5階コネクションエリアに移し、ケーキバイキングが行われた。すっかり打ち解けた様子で、どのテーブルも会話が絶えなかった。

最後は、参加者とスタッフ全員で記念撮影。学年や学科の枠を越えた新しい友達作りができたようで、参加者からは「楽しかった！」「先輩と話ができて良かった」と、多くの喜びの声が聞かれた。

全員で撮影した集合写真

トークショーの様子

「女子学生のためのキャリアデザイン講演会・茶話会」を実施

6月29日、明徳館7階のプレゼンテーションコートで「女子学生のためのキャリアデザイン講演会・茶話会」を実施した。この会は、女子学生が豊かな人生を設計するための意識作りを支援することを目的に、社会で活躍している女性の卒業生を招いて毎年開催している。今年度は、岡信衿香さん（株式会社広島東洋カープ＝平成27年3月スポーツ経営学科卒・広島県／広島皆実高校出身）、今本千晶さん（信金中央金庫＝平成28年3月メディアビジネス学科卒・広島県／五日市高校出身）、岸副鈴菜さん（株式会社マイナビ＝平成29年3月メディアビジネス学科卒・広島市立広島商業高校出身）の3名から学生生活の思い出話や就職活動について、そして女性として働く今について話があった。

茶話会で交流する卒業生と女子学生たち

講演会の後は、卒業生を囲んでの茶話会が行われ、参加者たちはそれぞれ就職活動に対する不安や、学生時代に何をしておけばいいのかなど熱心に質問し、アドバイスをもらう様子が見られた。進路選択の幅を広げ、将来について考える良い機会となったようだ。

私の雑感　ゼミナール

75

経営学科
堀江 浩司 教授

『縁を大切に』

ゼミを担当して14年になる。今回の執筆にあたり改めて考えてみたが、演習Ⅰ・Ⅱの卒業生だけでもざっくり計算すると180名ほどになる。あまり意識していなかったので、けっこうな人数に驚いた。1期生はすでに30代中頃のまさに働き盛りになっており、またゼミを指導し始めた私の年齢くらいになっているわけで、いやでも時の流れを実感させられる。

最初は手探り状態で始めたゼミにおける学びのあり方も時とともに、また所属する学生に合わせて少しずつ変化してきた。ただ、ゼミが大学で最も学びたいことを学ぶ場であること、主体的に取り組むこと、ゼミでの出会いを大切にしてほしいということは伝え続けている。

現在の4年次生の半数以上は1年次生の大学入門ゼミのメンバーである。この4年次生が2年次生の時からプレゼミが始まったのだが、結局このメンバーは4年間同じゼミで過ごすことになった。しかも、このメンバーのうち2組、4人はそれぞれ同じ企業に就職する予定だ。大学入門ゼミは学生の意思ではなく、入学時に大学によってメンバーが決められる。したがって、入門ゼミのメンバーには毎年、「偶然ではあるけれども縁あってこのメンバーで1年間ゼミ活動に取り組むことになったのだから、よい関係を築いていってほしい」と話しているが、4年間のゼミだけでなく就職先まで同じになるとは、縁をつないでいくゼミの力は思ったよりはるかに大きい。

また、現在の3年次生は全員プレゼミと同じメンバーである。数名は大学入門ゼミから同じだ。だから今のゼミは4月の立ち上がりからチームワークがとてもよい。このチームワークがあれば、3年次のゼミ活動から4年次の卒論製作まで元気に乗り切ってくれるだろう。そして、卒業後もゼミで得た縁を大切にしながら社会で活躍してほしい。

（教授　経営入門、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、プレゼミ、大学入門ゼミ、興動人入門ゼミ、インターンシップⅠ（国内））

サークルニュース

ダンス部Dance Razzleが「元気いっぱいエネルギー賞」を受賞

5月5日に開催された「2017ひろしまフラワーフェスティバル」において「きんさいYOSAKOI」のステージ部門で、本学ダンス部Dance Razzleが「元気いっぱいエネルギー賞」を受賞した。ダンス部の部員に加え、大学祭実行委員会の学生ほか学生有志も含めた総勢23名は、「千変万華」をテーマに構成したオリジナルのよさこいをステージ上で堂々と披露。過去何度も大賞を受賞している常連校としてのプレッシャーのなか、趣向を凝らした演舞と満面の笑顔で観客を魅了した。目標としていた大賞は逃したものの、演舞後に涙を流す学生たちの姿は、毎日のように練習を重ねてきた仲間たちとの強い絆と達成感に満ち溢れていた。

元気いっぱいに踊るダンス部部員

軟式野球部 全国大会出場決定

6月10日に本学野球場で行われた平成29年度広島六大学学生軟式野球春季リーグ戦の最終戦において、本学軟式野球部が尾道市立大学に7対0で勝利し、8勝1敗（勝ち点16）で優勝。第1代表として3年ぶり7回目の全国大会出場を決めた。

優勝がかかった尾道市立大学との最終戦では、仙波好基（経済学科3年・愛媛県／新田高校出身）投手がノーヒットノーランを達成し、春季リーグ戦での最優秀防御率賞を受賞。その他、最多本塁打賞など、多くの選手が個人賞を受賞した。

第40回全日本学生軟式野球選手権大会は、8月27日（日）から奈良県橿原市の各スタジアム（佐藤薬品スタジアム、橿原硬式野球場、橿原軟式野球場）にて開催される。

優勝トロフィーを手にする軟式野球部部員

サークル戦績

○ダンス部DANCE RAZZLE
▽2017ひろしまフラワーフェスティバル＝元気いっぱいエネルギー賞
▽第13回大宰府門前舞祭＝出場

○陸上競技部
▽第56回全日本競歩輪島大会【全日本10000メートル競歩】米田研志（39位）【ジュニア10000メートル競歩】川西克弥（35位）
▽第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会【5000メートル】大下浩平（32位）・大沼優（39位）・山本啓輔（37位）
▽2017日本学生陸上競技個人選手権大会【110メートルハードル】石本惣一朗（予選敗退）【5000メートル】大下浩平（36位）【3000メートルSC】木邑駿（16位）・谷澤泰輝（28位）

○空手道部
▽第61回全日本学生空手道選手権大会【女子個人形】脇田葵（予選敗退）【男子個人組手】藤原凱晴（3回戦敗退）、惠藤勇也（3回戦敗退）、尾加賢之朗（2回戦敗退）

○弓道部
▽第65回全日本学生弓道選手権大会＝出場

○軟式野球部
▽第40回全日本学生軟式野球選手権大会＝出場

第41回 ひろしまフラワーフェスティバル

5月3日から5日まで開催された「2017ひろしまフラワーフェスティバル」に、本学は3日間、「興動人ひろば」と名付けたブースを設け、延べ130名の学生たちが参加した。

昨年に引き続き「産官学民連携」をテーマに、興動館プロジェクトの学生たちが日頃のプロジェクト活動でご協力いただいている行政や企業、NPOの方々と連携しながら、様々なイベントを共同で企画した。

「武田山まちづくりプロジェクト」の学生たちは、子ども向けにピンポン球を竹の器に投げ入れて得点を競う「バンブーシューティング」を実施。子ども達に大人気であった。また、「カフェ運営プロジェクト」の学生たちは、地域振興を目的に庄原の物産品販売とコーヒーの試飲会を行った。

子どもから大人まで楽しめるイベント満載で、会場は終始盛り上がりを見せていた。

CIRCLE・INFO!

自由にのびのびと個性を表現しよう！

美術部

美術部では、油絵や水彩画などの絵画だけでなく、工作や衣装製作などさまざまな創作活動に取り組むことができます。創作に必要な画材や資料も豊富に揃っており、充実した環境です。現在の部員は15名。みんな和気あいあいと仲良く活動しています。

『好きなときに、好きなものを』。これが私たちの目標であり、一番大切にしていることです。創作活動は部員一人一人の自主性に任されており、自由に描き、個性を表現できることが大きな魅力です。大学合同美術展や文化祭での展示、大学のサークル紹介冊子の表紙絵作成など、定期的に作品を発表する機会があるほか、他大学の学生の作品を見て学べる機会も豊富に設けています。互いの作品を評価し合うことで、自己満足に終わらせず、次の作品に活かすことができます。個性を伸ばしながら、絵画や造形の技法と表現力を磨き、人間的にも大きく成長できます。

「描きたい」「作りたい」「表現したい」という思いを持っている方、美術作品を見るのが好きな方、ぜひ一度、部室見学に来てください。

活動日・時間／月曜日・昼休けい
場所／第一クラブハウス 3F 304
活動内容／油絵や水彩、工作や衣装製作など

平成29年3月卒業生就職率97・9％
「オーダーメイド」の就職支援で就職活動の質向上

学生と企業の最適なマッチングを創出

平成29年3月卒業生（就職希望者）の就職率は97・9％。前年度よりも0・6ポイント高い結果となった。

平成28年度の就職活動から、経団連（日本経済団体連合会）加盟企業の選考開始時期が2ヵ月前倒しの6月に変更となった。本学では、学生がこうした状況にもしっかりと準備を整えて就職活動に臨めるよう、教員との連携を強化して早期の就職支援に取り組んでいる。また、キャリアセンター職員とゼミ教員が連携して、学生一人ひとりの就職活動状況や希望の進路を把握。個別面談などきめ細かいサポートを行う本学独自の「オーダーメイド」の就職支援もさらに充実させている。就職ガイダンスや3年ゼミキャリアセンター活用ガイダンス、キャンパスに約300社を招いた学内合同企業説明会なども頻繁に開催。学生と企業の最適なマッチングの機会を豊富に設けている。平成29年3月卒業生に向けて実施したアンケートでは、本学の学内合同企業説明会が「就職企業の内定につながったきっかけ」と回答した学生が36・9％にもおよび、最適なマッチングの実現につながっていることがわかる。

3年ゼミキャリアセンター活用ガイダンスの様子

就職活動の質を高める就職支援

学生の就職先企業を10年前と比較すると、知名度や人気度の高い企業などへの就職者が圧倒的に増えている。県外の上場企業への就職者も増加傾向にあり、学生が選択する企業の幅も広がっている。

就職率の高さだけではなく、就職活動そのものの質を高め、学生自身が満足度の高い進路を決定できるように務めている。

平成30年3月卒業生（現4年次生）においても、6月時点で56％以上の学生（就職希望者）が内々定を得ており、好調な出だしとなっている。

海外就職を視野に入れた支援も

さらに、「インターンシップⅡ（海外）」の見直しを行い、新たなスタートを切った。アメリカまたはカンボジアで約3週間、英語力を活かして海外企業での体験を積む。今年度は4名が参加している。

今後は、海外企業への就職も視野に入れた就職支援にも一層力を注ぐ。学生一人ひとりが自分の「強み」を持ち、日本だけでなく、世界を舞台に羽ばたけるようサポートしていく。

平成29年度 広島経済大学学生表彰 石田学園各種奨学生 決定

平成29年度広島経済大学学生表彰受賞者及び石田学園各種奨学生が決定した。今年度は、27名の学生が対象者となった。決定した受賞者、奨学生は次のとおり。

●広島経済大学学生表彰（3名）

学部の2～4年次生において、前年度1年間に39単位以上修得した者の中での学業成績の順位が各学年で第1位の者。

廣信彩夏（経営学科4年）・白川舞（経営学科3年）・太刀掛友貴（経済学科2年）

●石田学園学業奨学生（17名）

学業成績、人物ともに優秀な学生に対して支給。

小橋大吾（経済学科4年）・廣信彩夏（経営学科4年）・参鍋宏輝（経営学科4年）・磯崎祐利恵（経営学科4年）・田頭勇人（経営学科4年）・中村舞（ビジネス情報学科4年）・矢下滋之（経済学科3年）・吉川雄太（経済学科3年）・三好将太（メディアビジネス学科3年）・前原理沙（スポーツ経営学科3年）・久万紗希（経済学科2年）・土井将義（経済学科2年）・佐々木芳（経済学科2年）・田村彩友美（経営学科2年）・安田穂乃花（経営学科2年）・田中健介（経営学科2年）・厚田健人（スポーツ経営学科2年）

●石田学園アクティブ奨学生（5名）

学業の修得だけではなく、さまざまな分野において若者らしい積極的な活動を行っているなど、本学学生の模範として相応しいと認められる者に対し支給。

上﨑大地（メディアビジネス学科4年）＝コミュニティFM放送局運営プロジェクトでの活動、Welcome興動館week、オープキャンパス実行委員長・上田真弘（経済学科3年）＝宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトの活動、リーダーシップチャレンジinサイパンへの参加、ケニアスタディツアーへの参加、文部科学省　地方創生推進事業（COC+）・梶田寛登（経済学科3年）＝動物のかけがえのない命を守ろうプロジェクトの活動、ケニアスタディツアーへの参加・木村結（経営学科3年）＝中高生の夢・笑顔実現!!プロジェクトの活動、宮島親善観光大使の活動、本学の広報活動への協力、こまち会の活動、資格取得（簿記3級）、成績優秀・伊藤みづき（メディアビジネス学科3年）＝コミュニティFM放送局運営プロジェクトの活動、こまち会執行部の活動、本学の広報活動への協力

●石田学園学部との5年プログラム奨学生（2名）

専門的な知識の修得及び高度な研究活動を志す者に支給。

泉田和希（大学院前期課程）・卜部洋平（大学院前期課程）

学生表彰受賞者、石田学園奨学生

第50回 経大祭開催

テーマ：「Get Over」

10/28(土)・10/29(日)

平成29年10月28日（土）、29日（日）広島経済大学において第50回経大祭を開催いたします。今年のテーマは「Get Over」です。この「Get Over」という言葉には「乗り越える」という意味があり、「今」や「これから」を乗り越えていけるような大学祭にしたいという思いが込められています。

例年とは一味違う新しいことに取り組み、ご来場くださるお客様に満足していただける大学祭にしたいと思います。第50期大学祭実行委員一同全力で取り組んでいますので、ぜひ足をお運びください。

問い合わせ先：学務センター学生課　TEL 082-871-1003

第12回 祇園・興動祭 開催のお知らせ

開催日時：11月12日(日) 11時～18時

祇園・興動祭は「地域とのつながりや交流によって祇園地区を活性化させる」ことを目的に、2006年から毎年開催してきました。12回目を迎えた今年は平成29年11月12日（日）11時から広島経済大学興動館において開催いたします。ステージや屋台など、多彩な催しをご用意して皆様のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先：興動館　TEL 082-832-5010

経大の凄い人 特集 Vol.6

人間の力だけで織りなす、究極のロードスポーツ自転車競技を大学から始め、今では、実業団に所属し、活躍中。学生生活と両立させながら、練習やレースに励んでいるストイックな彼を要チェック!!

【プロフィール】
名前：松原（まつばら）　陸
（スポーツ経営学科3年・島根県／益田高校出身）

【自転車競技を始めたきっかけは】

もともとはテニスをしていましたが、肩を壊して、何か本気で取り組めることがしたいと考えていました。自転車競技には巡り合わせがあり、気づけば走っていました。

【日々どのようなトレーニングをしているか】

朝4：30に開始し、40kmから60kmを走ります。そのあとシャワー浴びて学校に行くという日課です。土日は、120kmから250km走っています。その中でいろいろメニューを考えこなしていきます。どの練習もとてもキツイし、与えられた練習ではなく自主的な練習なので気持ちがないと続けることはできません。

【レースの結果は】

「TSタカタサーキットレース」や「サイクルフェスタHIROSHIMA」で優勝しました。レースは年に20レース近く走っています。

【印象に残っていることは】

多くの方たちと出会いがありつながりが増え、仲間が増えていくその一回一回が心に残っています。出会いがなければ僕は今実業団選手として沢山の人達の応援を受けることはできなかったですし、充実した日々を送れていたかわかりません。だからこそ、今後も全力で皆さんの応援に応えられるように練習し、レースに取り組んでいきたいと思っています。

【自転車競技の魅力は】

練習した分だけ良くも悪くも自分に返ってくることです。だから自分を成長させてくれますし、自然と向き合いながら走っているので感性も豊かになります。将来は、どんな形でも全日本の大会で結果を残すことを1つの目標にしています。

自薦・他薦問いません。皆さんの周りの凄い人を入試広報センターまで紹介してください！

シティカレッジ　10月2日(月)受付開始

平成29年度 広島経済大学公開講座

テーマ　ヨーロッパの諸相－いま・むかし－　参加無料 定員60名

2000年を超える歴史を持つヨーロッパの国ぐにを訪れると、その歴史的伝統を感じさせる街並みや文化的な遺産、そして人びとの営みを感じます。また、そのような国ぐにが未だに、経済やスポーツ、芸術などで世界をリードする状況は変わりません。その要因を知ることで、ヨーロッパの人びととより積極的に向き合う心構えをつくることができるでしょう。

今回の講座では、西欧の国ぐにに滞在経験のある講師が話題を提供します。

第1回 11/7(火)	中世ヨーロッパの人々とキリスト教 —祈りと死の表現をめぐって—	講師　末広　菜穂子（教授）
第2回 11/14(火)	市場社会におけるスポーツという遊びとプロスポーツという財・サービス —イギリスで見て感じたフットボール文化—	講師　中嶋　則夫（教授）
第3回 11/21(火)	イタリアのスポーツ文化 —北部での滞在経験を通じて—	講師　岡安　功（准教授）
第4回 11/28(火)	知られざる大国ドイツ —国力の源泉—	講師　竹林　栄治（准教授）

●時間／18時～19時30分（開場17時30分）
●会場／〒730-0036　広島市中区袋町6-36
合人社ウェンディひと・まちプラザ（まちづくり市民交流プラザ）北棟5階
研修室C（最終回は研修室A）
●申込手順
手順1. 講座を受けるためには、受講証が必要です。教育ネットワーク中国に登録の手続きをしてください。詳しくはhttp://www.enica.jp/hiroshima/index.htmlを参照してください。
また、教育ネットワーク中国「ひろしまカレッジ事務局」にお問い合わせください。
〒730-0803　広島市中区広瀬北町9-3（広島修道大学インターナショナルハウス内）
教育ネットワーク中国　「ひろしまカレッジ事務局」　TEL（082）533-7591
なお、すでに受講証をお持ちの方は、再度、登録の手続きの必要はありません。
手順2. 受講証の手続きが終わった方は、または、すでに受講証をお持ちの方は、電話、ファックス、来所にて、①希望講座もしくは大学名　②氏名（ふりがな）　③住所④連絡先（電話番号・ファックス番号等）を以下の申込先にお知らせください。
※郵送（はがき等）による申し込みは受け付けておりません。
●申込先／（財）広島市未来都市創造財団ひと・まちネットワーク部管理課
〒730-0036　広島市中区袋町6-36（広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階）
TEL（082）541-5335　FAX（082）541-5611
●受付時間／月～金（祝日を除く）8:30～17:15まで（来所の場合は9:30から）
※個人情報については、大学・教育ネットワーク中国と共有しますが、事業運営以外の目的には使用しません。

※先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。

平成30年度 学生募集要項

学部および大学院の入試要項を配付しています。
お申込みは本学ホームページ・電話・メールなどで。
〒731-0192　広島市安佐南区祇園五丁目37番1号
(学部・大学院) 入試広報センター☎ 082-871-1313 ／✉ ent-sc@hue.ac.jp
(留学生) 国際教育交流センター☎ 082-871-1002 ／✉ int-sc@hue.ac.jp

■大学院　博士課程前期課程

[一般選抜]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程[研究者養成コース・経済学専修コース]10名(外国人留学生、社会人特別選抜、国外受験者、外国人留学生指定校推薦を含む)
出願期間	Ⅰ期＝平成29年8月1日(火)～8月17日(木)【締切日消印有効】 Ⅱ期＝平成30年1月18日(木)～2月5日(月)【締切日消印有効】
試験日	Ⅰ期＝平成29年9月5日(火)・6日(水) Ⅱ期＝平成30年2月21日(水)・22日(木)
合格発表	Ⅰ期＝平成29年9月12日(火)午前10時 Ⅱ期＝平成30年2月28日(水)午前10時

[社会人特別選抜]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程 [経済学専修コース]若干名(外国人留学生を含む)
出願期間	Ⅰ期＝平成29年8月1日(火)～8月17日(木)【締切日消印有効】 Ⅱ期＝平成30年1月18日(木)～2月5日(月)【締切日消印有効】
試験日	Ⅰ期＝平成29年9月6日(水) Ⅱ期＝平成30年2月22日(木)
合格発表	Ⅰ期＝平成29年9月12日(火)午前10時 Ⅱ期＝平成30年2月28日(水)午前10時

■大学院　博士課程後期課程

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程(研究者養成コース)3名(外国人留学生、国外受験者を含む)
出願期間	平成29年1月18日(木)～2月5日(月)【締切日消印有効】
試験日	平成30年2月21日(水)
合格発表	平成30年2月28日(水)午前10時

■学部　AO 入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科20名
エントリー期間	Web・電話でのエントリー　平成29年6月19日(月)～8月24日(木) オープンキャンパスでのエントリー　平成29年6月18日(日)、7月15日(土)、7月16日(日)、8月27日(日)
全体説明・一次面談期間	平成29年7月15日(土)、7月16日(日)、8月2日(水)、8月3日(木)、8月27日(日)のうちいずれか1日
出願期間	平成29年8月28日(月)～9月8日(金)【締切日消印有効】
二次面談期間	平成29年9月26日(火)～9月29日(金)
合格発表	平成29年10月12日(木)午後5時

■学部　特別推薦入学試験（スポーツ、特定資格、海外経験分野）

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科(スポーツ分野35名、特定資格分野15名、海外経験分野2名)※スポーツ経営学科はスポーツ分野のみ募集
出願期間	平成29年11月1日(水)～11月7日(火)【締切日消印有効】
試験日	平成29年11月17日(金)
合格発表	平成29年11月24日(金)午後5時

■学部　資格スカラシップ推薦入学試験（1 期・2 期・3 期）

募集人員		経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
1期	出願期間	平成29年11月1日(水)～11月7日(火)【締切日消印有効】
	試験日	平成29年11月17日(金)
	合格発表	平成29年11月24日(金)午後5時
2期	出願期間	平成30年1月4日(木)～1月24日(水)【締切日消印有効】
	試験日	平成30年2月6日(火)
	合格発表	平成30年2月15日(木)午後3時
3期	出願期間	平成30年2月16日(金)～2月26日(月)【締切日消印有効】
	試験日	平成30年3月5日(月)
	合格発表	平成30年3月9日(金)午後3時

■学部　一般公募制推薦入学試験

募集人員	経済学部／経済学科55名・経営学科50名・ビジネス情報学科10名・メディアビジネス学科10名・スポーツ経営学科10名
出願期間	平成29年11月1日(水)～11月7日(火)【締切日消印有効】
試験日	平成29年11月17日(金)
合格発表	平成29年11月24日(金)午後5時

※3学科併願制　1回の受験で3学科まで出願することが可能です。

■学部　一般入学試験（1 期・2 期）

1期	募集人員	経済学部／経済学科105名・経営学科100名・ビジネス情報学科25名・メディアビジネス学科25名・スポーツ経営学科25名
	出願期間	平成30年1月4日(木)～1月24日(水)【締切日消印有効】
	試験日	平成30年2月6日(火)・7日(水)
	合格発表	平成30年2月15日(木)午後3時
2期	募集人員	経済学部／経済学科20名・経営学科20名・ビジネス情報学科5名・メディアビジネス学科5名、スポーツ経営学科5名
	出願期間	平成30年2月16日(金)～2月26日(月)【締切日消印有効】
	試験日	平成30年3月5日(月)
	合格発表	平成30年3月9日(金)午後3時

※試験日自由選択制　2月6日・7日の試験日をどちらか、又は両日とも選択できます。
両日とも同一学科を受験した場合は、高い方の合計得点で選考します。【1期のみ】
※複数学科併願制　1回の受験で5学科まで出願できます。
※商業学科等優先選抜枠を設置。(経済学科10名、経営学科10名、ビジネス情報学科5名、メディアビジネス学科5名、スポーツ経営学科5名)【1期のみ】

■学部　センター利用入学試験（1 期・2 期）

1期	募集人員	経済学部／経済学科40名・経営学科40名・ビジネス情報学科10名・メディアビジネス学科10名・スポーツ経営学科10名
	出願期間	平成30年1月4日(木)～1月31日(水)【締切日消印有効】
	合格発表	平成30年2月15日(木)午後3時
2期	募集人員	経済学部／経済学科10名・経営学科10名・ビジネス情報学科5名・メディアビジネス学科5名・スポーツ経営学科5名
	出願期間	平成30年2月16日(金)～2月26日(月)【締切日消印有効】
	合格発表	平成30年3月9日(金)午後3時

※複数学科併願制　1回の受験で5学科まで出願できます。

■学部　社会人入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	平成30年2月16日(金)～2月26日(月)【締切日消印有効】
試験日	平成30年3月5日(月)
合格発表	平成30年3月9日(金)午後3時

■学部　編入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	平成30年1月4日(木)～1月24日(水)【締切日消印有効】
試験日	平成30年3月5日(月)
合格発表	平成30年3月9日(金)午後3時

■学部　外国人留学生公募制推薦入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　6名
出願期間	平成30年1月4日(木)～1月17日(水)【締切日消印有効】
試験日	平成30年2月2日(金)
合格発表	平成30年2月15日(木)午後5時

※複数学科併願制　1回の受験で3学科まで出願できます。

■学部　外国人留学生入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）

募集人員	Ⅰ・Ⅱ期＝経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	Ⅰ期＝平成30年1月4日(木)～1月17日(水)【締切日消印有効】 Ⅱ期＝平成30年2月8日(木)～2月19日(月)【締切日必着】
試験日	Ⅰ期＝平成30年2月2日(金)／Ⅱ期＝平成30年3月7日(水)
合格発表	Ⅰ期＝平成30年2月15日(木)午後5時 Ⅱ期＝平成30年3月9日(金)午後5時

※複数学科併願制　1回の受験で2学科以上出願することが可能です。

■学部　外国人留学生のための書類選考による入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	平成30年1月4日(木)～1月17日(水)【締切日消印有効】
試験日	平成30年2月2日(金)
合格発表	平成30年2月15日(木)午後5時

人事

昇任・昇格

〈平成29年6月1日付〉

◆事務職

【センター長】国際教育交流センター（事務担当）岡田浩典▽教育・学習支援センター（学習支援担当）高野修▽学務センター（学生担当）深川敏一【課長補佐】法人部 千原晶子▽法人部 松谷智子▽キャリアセンター 黒瀬孝文▽興動館 柏谷紘計【係長】総務部管財課 平井香巻▽学務センター学生課 野村行宏▽教育・学習支援センター学習支援課 堰楽典子▽入試広報センター 住本洋子▽図書館 宮原詩麻

異動

〈平成29年6月1日付〉

◆事務職

【法人部】平本和美 課長補佐【総務部総務課】西川美江 課長補佐【学務センター教務課】岡崎純子 課長補佐【キャリアセンター】黒瀬孝文 課長補佐【図書館】宮城小夜子

訃報

法人部 係長
高本　登彦

平成29年6月2日午後1時逝去。42歳。
平成18年（4月）事務職に就任し、キャリアセンター主任、学務センター教務課係長、法人部係長を歴任。

貫名貴洋准教授が博士号を取得

貫名 貴洋 准教授

平成29年3月7日、メディアビジネス学科貫名貴洋准教授が博士（経済学）の学位を取得した。
国際マクロ経済学における6つの主要な謎の1つである"Feldstein-Horioka Puzzle"について、OECD諸国の国別データや、日本・韓国・インドネシア・フィリピンの国内地域データをもとに、計量経済学的手法を用いて実証分析を行った。広島大学社会科学研究科に学位論文を提出。結果、学位を取得した。
論文題目
「国際的資本流動性に関する実証的分析」

保護者様向けメールマガジン配信中（通称:HUE(ヒュー)メル）

本学では、広島経済大学の最新情報を月初めにメールマガジンで配信しています。ぜひ、ご登録のうえご覧いただき、広島経済大学及び学生たちのことを知る一助にしていただければと思います。保護者の皆様の多数のご登録をお待ちしております。登録方法はオフィシャルサイトから"保護者の方"をクリックしてください。

「JOCオリンピック支援自動販売機」広島市民間施設に第一号機設置　除幕式開催

除幕をする参加者

本学2号館前に「JOCオリンピック支援自動販売機」が広島市の民間施設で初めて設置されることになり、7月19日に除幕式が開催された。このプログラムは、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）とコカ・コーラボトラーズジャパングループ コカ・コーラウエスト株式会社が共同実施し、東京オリンピック大会を目指すアスリートの強化支援のPR及びオリンピックムーブメントの推進などに活用するため、2016年1月より展開されている。
除幕式には、石田恒夫理事長をはじめ、オリンピックに出場経験のある広島経済大学尾方剛准教授、松田亮助教の他、コカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部の選手たちが参加した。
挨拶に立った陸上競技部監督でもある尾方剛准教授は「東京オリンピックでは立場を変え、指導者として挑戦できればと思っています。支援活動を通じてオリンピックを一緒に盛り上げていきましょう」と呼びかけた。
最後に記念撮影を行い、未来のオリンピックアスリートの活躍を祈り終了した。

BOOKS

◆広島経済大学経済研究論集　第40巻　第1号(2017年6月)

【論　説】

2016年のスマートフォン市場動向の検証　**山本　雅昭**(教授)
都道府県別データを用いた図書館貸出冊数と書籍販売金額の相関分析　**貫名　貴洋**(准教授)

【研究集会報告】

曖昧さ(ambiguity)の下での意思決定について　**堀江　真由美**(准教授)
内示情報と生産計画　―持続可能社会における先行需要情報の活用―　**上野　信行**(教授)
「一人産官学」私の研究・活動領域　**北野　尚人**(教授)

◆広島経済大学研究論集　第40巻　第1号(2017年6月)

【論　説】

生徒の数学的活動を促す授業づくりに関する考察
―生徒の既習の数学的知識に視点をあてて―　**平岡　賢治**(教授)　**野本　純一**(佐世保市立東明中学校 教諭)
大学の教職課程における教科教育法の指導目標と内容に関する研究
―商業科教育法と情報科教育法について―　**餅川　正雄**(教授)　**梶川　正**(広島経済大学 非常勤講師)
スポーツ指導経験が大学生の社会的スキルの向上に及ぼす効果に関する研究
―大学運動部活動がもたらす非認知スキルの関与について―　**松田　亮**(助教)　**田村　孝洋**(中村学園大学 教育学部 助教)

【研究集会報告】

アフター・ザ・フォール　―現代アメリカ演劇とその研究の動向―　**森　瑞樹**(助教)

学生の皆さんへ

『論集』には先生方の最新の研究成果が掲載されています。最新号は、1号館玄関・図書館・メディア情報センター等に置いていますので、各自自由に持ち帰ってください。また、バックナンバーをご希望の場合は、地域経済研究所まで来てください。

第4回オープンキャンパス開催！

8月27日(日)
10:30～15:30

無料送迎バス運行

学科別模擬授業、女子限定「女子カフェ」、入試説明会のほか特別プログラム「先輩の声を聞こう！！」などさまざまなイベントを用意し、みなさまのお越しをお待ちしております。

オープンキャンパススタッフが皆さんをお待ちしています

問い合わせ先：入試広報センター　TEL.082-871-1313

本学図書館所蔵書物紹介コーナー「知の系譜」No.40

マルティン・ルター
「ドイツ語新約聖書
（9月聖書）」
初版　1522 年
ヴィッテンベルク刊

Luther, Martin, 1483-1546.
Das newe Testament deutsch.
Wittenberg: [Melchior Lotter the younger & Lucas Cranach the elder, 1522].

本書は、宗教改革の立役者となったマルティン・ルターが、ドイツ語に翻訳した新約聖書である。中世ヨーロッパでは、ラテン語訳の聖書がカトリック教会によって公認されており、信者がその内容を知るには、司祭の説明に頼る以外に方法がなかった。
ルターは聖書だけが神の言葉を伝えると考え、寺院修復のための資金集めに奔走するカトリック教会を批判する論文を次々と発表した。その結果、教会からの破門と帝国からの追放を宣告されてしまう。しかし、彼を支持するザクセン選帝侯の保護によって城にかくまわれ、庶民でも母国語で聖書が読めるように新約聖書のドイツ語翻訳に着手した。
1522年9月に刊行した本書は、印刷した3000～5000部がすぐに完売し、3ヶ月後の12月には第二版を刊行している。初版と第二版はそれぞれ「9月聖書」「12月聖書」と呼ばれる。ドイツ庶民は、ルターの聖書を手にしてはじめて、その内容を自分たちの言葉で理解できるようになった。挿絵は北方ルネサンスを代表する画家で、ルターの友人だったルカス・クラーナハが手がけ、カトリック教会を皮肉った巻末の黙示録の挿絵が有名である。
本書は世界で39点の現存が確認されており、国内では本学の所蔵が唯一という大変希少な一冊である。